

## 父さんはどこ「里の秋」

住山一貞

6月はわれら「父の日」の月です。でも日本の歌曲で父親が登場する機会はあまりありません。「里の秋」には、珍しく「父さんのあの笑顔」と言った歌詞がありますが、でもそこにはいないのです。どこにいるのか、長い間、不思議でした。少し早めに冬の出稼ぎに行ってしまったのか？ 競輪に使いこんで、蒸発したのか？

この歌も「ミカン」と同じ海沼作品で、川田正子さんが歌っています。ラジオで、「子供のど自慢」などがあると、必ず歌われました。でも「父さん」の謎は解けません。判ったのは合唱を始めて3番の歌詞を見てからです。普通は2番までしか歌われず、「いつの日か」の曲集にも3番は出ていません。実はこの曲もNHKが一枚かんでいます。終戦後、海外からの引揚者が多く、その人たちを励ます番組が企画され、そこで生まれたのだそうです。昭和20年12月の放送でした。（「みかん」は21年8月）歌詞は戦争中に出来ていて、「僕も大きくなってお国のために尽くします（大意）」と言った歌詞だったそうですが、作曲されずそのままになっていました。それを引っ張り出してきて、作詞者を呼び出し改作しました。（海沼氏だけあって著作権尊重です）「さよなら、さよなら、ヤシの島」という、3番が生まれました。父さんは南の島に戦争に行っていたのです。「ヤシの島」も、実際は飢えや爆撃で大変だったでしょう。放送されると大反響だったそうですが、3番は次第に歌われなくなっています。その方が曲に汎用性が生まれて、誰でも自分の体験に照らして歌えるからだと思います。

ところで、父親を歌った歌が他にないか考えてみました。「魔王」は別格とします。そこで、とんでもない歌を思い出しました。知る人ぞ知る、知らない人はその方が良い「父よ、あなたは強かった」という歌です。父親が歌の主役になる世の中はあまり良い社会ではなさそうです。「父さん」はひっそりと隠れている方が、世の中は平和なのでしょう。

参考：「唱歌・童謡、100の真実」